

河童連邦共和国のサミットにおいて、2年に渡り行われた[へのカップシンポジウム・河童の渡來說と国内説]で盛り上がりましたが、徹底的に追究したく今回調べ直して見ることとする。

港横濱カップシティ 三瀬勝利

河童とは何者？

(九州河童紀行—九州河童の会)

中国語の辞書では、

「水虎」Shuihu 1. 河童 2. 水鬼

「河童」ho-tung 日本の想像上の一匹の動物・水陸両棲し幼児ぐらいの体形

「河伯」ho-pe 黄河の水神・河の神

(日本の辞書広辞苑・振り仮名でかわのかみ)とあり、水神・河童の意味)

「河伯使者」ho-pe-shih-cheh スッポン・ドウガメ

「西遊記」—日本では、「孫悟空は仙石から生まれた猿で姓は孫」「八戒は天河の元師が豚に生まれ変わり姓を猪」「悟浄はもと、大将で罪あって流されたが、観音より姓を沙、法名を悟浄と賜わる」

このように中国には河童はいないから、日本が創作しているわけだ。

福岡県田主丸の馬場瀬神社にも、沙悟浄は河童として祀られている。

中国の河童「河伯」—(失われた異星人グレイ河童)の謎—飛鳥昭雄・三神たける著

河童＝カップの語源は「河伯」である。「河伯」という言葉は、もともと中国語であった。

「河伯」の日本語読みは、正しくは「カハク」ではなく、「カワノカミ」である。

カワノカミというまでもなく、河の神のこと。

「河伯」とは「黄河の伯爵」という意味で、黄河を支配する水神のことをいう。

河伯は黄河で溺れて死んだ人間の霊であった。

河童の起源

◆ 人形化誕生説

1. 河童人形起源説—(河童アジア考・斉藤次男)

人形が川に捨てられ河童になったということは、おそらく古代エジプトのピラミッド建設のように日本でも大きな神社仏閣、堀のある城、港や堤防などの建設には常に多数の水利技術者が必要になり、用済みになってしまうことになる。

そこであぶれた労働者は行くところがなくなって何処かの川っぺりなどで、ムシロ小屋でも作って住みつくことになったのかもしれない。

つまり、人形が川へ捨てられて河童になったという。

同じようなことは、オリンピック当時各地から多数の臨時労働者が東京に集まったが、オリンピックや高速道路の建設が一段落すると行き場のなくなった一部の労働者は山谷あたりに流れ込んで一つの集団になっていった。

そういう風に考えてくると、帰化することもできず、さりとて本国へ帰るに帰れなくなった中国からの渡来者が数多く九州の川辺に住みつき、その度に九州の河童が増えていったと想定することが出来る。

2. 化生説—(河童の世界-石川純一郎)(遠野の河童たち-原美穂子)

A. 川へ捨てた来迎柱などの木屑より化した

陸奥八戸は櫛引八幡宮の社殿は左甚五郎の築造と伝えられ、八甲田山のコンガラ沢から来迎柱として刈り出された櫛の木を、尺の取り違いから無駄にしまい、ヌキを通したまま馬淵川へ捨てた。

そので木屑は左甚五郎に何とかしてくれ、と頼みこんだけれども聞き入れられず、その方は尻でも食え、と怒鳴ったので河童と化して人畜の尻子玉を狙うようになった。

B. 番匠に加勢した人形より化した

豊後国直入郡玉来の真宗寺建立の際、これを請け負った武田番匠は大工の不足に頭を痛めた。

そこで、ヘラの木で人形を作って息を吹き込み、弟子に仕立てて使った。

そのお陰で寺の建立が成ると、その弟子どもを再び元の人形に戻して川に流した。

これが河童となり、以来寺の近くの赤淵は豊後河童の本拠になったという。

C. 藁人形説—(河童考-飯田道夫)(遠野の河童たち-原美穂子)

天草島の伝承で、左甚五郎がさる大名に迎えられ、その館の造営にあたっときのこと、期限内の完成が危ぶまれたので、沢山の藁人形をこしらえ、これに生命を吹き込んで加勢させめでたく竣工にこぎつけた。

それで不要になった藁人形が、今後はなにを食って生きていったらよいでしょうと尋ねるので、甚五郎は、人の尻でも食らえ、と答え、その結果、藁人形は河童と化して、人の尻子玉を狙うのだという。

D. 春日神宮造営の河童—(河童の荒魂-若尾五雄)

橘諸兄の孫兵部大輔島田丸、春日神宮造営の命を拝した時、内匠頭某といふ者 99 の人形を作り、匠道の秘密を以て加持するに、忽ちかの人形に、火たより風寄りて童の形に化し、或時は水底に入り或時は山上に到り、神力を播し精力を励まし召仕はれける間、思ひの外大営の功早く成就す。

よつてかの人形を川中に捨てけるに、動くこと尚前の如く、人馬家畜を侵して甚だ世の禍となる。

此事遥かに叡聞あって、其時の奉行人なれば、兵部大輔島田丸、急ぎかの化人のうず禍を鎮め申すべしと詔を下さるゝ。乃ち其趣を河中水辺に触れまはりしかば、其後は河伯の禍なかりけり。

是よりしてかの河伯を兵主部と名付く。主は兵部といふ心なるべし。

それより兵主部を橘氏の眷属とは申す也(北肥戦志)—柳田國男は、これらの話に出て来る人形とは河太郎のことだといひ、これ等の話は「取り止めのない空想の話ではない」としている。

3. 平家女官変身説—河童の研究(大野桂)

源平合戦にまつわる河童伝説もある。

寿永四年(1185)、最後の決戦を檀の浦に賭けた平家軍は敗れ、関門海峡の海底深く沈んだ。

恨みを残したこの入水によって、平家の武士たちは平家蟹となり、甲羅に怒りの形相をとどめ、女官たちは河童と化し、全国の海や川に棲みついたという。

その河童達の統師が海御前と呼ばれ、北九州市の天疫神社には河童塚と称する墓がある。

海御前は、平家の勇将、能登守教経の妻である。

関東には、利根川に棲む雌河童の“女親分、ネネコがいる。

九州の海御前は、このネネコと東西で雌河童の勢力を二分しているわけである。

『九州河童紀行』—九州河童の会編によると、その女傑の名はポンポコは、豊前の中元寺川を縄張りとする河童一族の首領、六助の一人娘だった。

男勝りでケンカ好き、ついに豊前、豊後一带の女親分になった。

このポンポコ姐さん、あの河童の大親分、九千坊にケンカを売ったのである。

当時もう筑後川に移っていた九千坊は、高野に陣を敷き、大戦争は一年も続く。

ところが意外な結末が待っていた。

ポンポコは、高野の頂上から放尿する九千坊の雄姿を目近かに見てコロリと参り、九千坊の軍門に下るや、なんと、九千坊の女房に収まってしまふ。

◆ みづちが河童の起源—中河与一 遠野の河童たち(原美穂子)

東北地方には「みづち」という言葉が残っているが、このみづちが河童の起源ではないかと考えている。

「言海」をひいてみると、「みづちは龍の属、蛇に似て四つ足のもの、龍の子の角あるもの」と書いてある。

「ち」は霊の意味、みづちは水の霊という意味かと思う。

「日本書紀」の仁徳記をみると「中国の川島河の派に大蛇ありて人を苦しむ」とあってそれを退治したことが書いてある。一種の空想の動物であったことは間違いない。

このみづちこそ河童であって、河童の起源であると考えている。

渡 来 説

◆ 本朝化生説—

◆ 震旦渡来説—(河童の世界-石川純一郎) (遠野の河童たち-原美穂子) (河童考-飯田道夫)

球磨川に立てられた河童渡来の碑はこの説に基づいたものである。

昔河童は唐天竺の黄河の上流に大旗をなして住んでいた。

その中の一族が郎党を引き連れて黄河を下り、海をわたって九州に来、九州一の大河である球磨川に住むこととなった。

その一族が繁殖して九千匹に達し族長を九千坊といった。

九千坊と称する族長は乱暴者で、田畑を荒らしたり、女子供をかどかわしたりするので、肥後の殿様・加藤清正が怒って、九州の猿をみな集めて攻め立てた。

河童にとって猿は手ごわい敵であったから降参した。

肥後を立ち去る約束でようやく詫びを入れ、やがて、隣国筑後は久留米の殿様・有馬公の許しを得て筑後川に住むようになり、水難除け神の水天宮のお使いとなったという。

○ 河童渡来は中国人児童の集団疎開—(九州河童紀行—九州河童の会)

千五、六百年前、九千坊という河童の大將に率いられた九千の河童の集団が、黄河流域から八代の徳淵の津(港)にやってきたのだが、中国では魏、蜀、呉の三国が約半世紀に亘り死闘を続け、覇権を争った後、次々と滅亡して行き、中原では梁の武帝が長く続いた戦乱によりややく終止符を打ち、梁王朝の基礎に取りかか

った頃である。

これら長く続いた戦乱により、よくあることだが、大人達はあるいは殺され、あるいは皆奴隷として連去られ、残ったのは幼い児童達のみになってしまった。

そこでこれは大人達が強いて頼んだのか、九千坊自ら進んで成したかは判らぬが、要するにこれら大多数の児童の集団を率いて新しい平和な新天地を求めて船出したのである。

この九千坊という人は、ラマ僧ではなかろうか、とも思うのである。

○ 牛頭天王の御子神 (河童の世界-石川純一郎) (遠野の河童たち-原美穂子)

牛頭天王を祀る祇園祭は疫病、病害の流行のきざす季節に行われる。

盛夏をひかえて水の犠牲の発生し始める時期でもある。

こうして河童信仰とは深いかわりを持つにいたる。

奥州八戸には、河童は天王様の兄であるという伝承が行われている。

年神は末子でわがままなので正月だけしか拝まない。

河童はあまりずるいので天王様の怒りを買って川へ投げられ、そのために川に住むようになったという。

(失われた異星人グレイ河童」の謎-飛鳥昭雄・三神たける著)

○ 牛頭天王の信仰を日本にもたらし、スサノオ命と習合させたのは秦氏である。

河童が牛を水の中に引くように、秦氏は牛頭天王を水の中の日本列島へ引っ張ってきた。

すべては秦氏の渡来伝説が根幹にあるのだ。おそらく、1500-1600年前、新羅から秦氏が大集団で渡来してきて、神社を建立。

やがて、神仏習合によって妙見様が祀られるようになり、秦氏は河童と呼ばれて云ったのではないだろうか。

○ 秦氏は祇園祭の間、大好きな物を食べないという忌み事を決めていたのかもしれない。

キュウリをタブーとしたのも、秦氏が河童であったことが、本当の理由なのではないだろうか。

八坂神社の祭神として知られる。

興味深いことに、八坂神社の祭礼である「祇園祭り」の前後、なぜかキュウリを食べることを忌む地方が多い。祇園祭りまで食べないとか、祭りの間だけ食べないとか、はては祭りの後は食べないとか、いろいろバージョンはあるがタブーであることは変わりなはない。

その理由は、八坂神社の社紋である「木瓜」がキウリ〜キュウリと読め、かつ図柄がキュウリの断面に似ているからだという。

○ かっぱ村初代村長中河与一談 (遠野の河童たち-原美穂子)

河童は、溪谷が多い自然環境のなかで生まれた日本人の所産だと主張。

『言海』をひいてみると、「みづちは龍の属、蛇に似て四つ足のもの、龍の子の角あるもの」と書いてある。「ち」は霊の意味、みづちは水の霊という意味かと思う『日本書紀』の仁徳記をみると「中国の川島河の派に大蛇ありて人を苦しむ」とあってそれを退治したことが書いてある。

一種の空想の動物であったことは間違いない。

「みづち」という言葉が残っているが、このみづちが河童の起源ではないかと考えている。

○ **斎藤次男「河童アジア考」**

海人・漂流民が内陸に定住したのが河童だという

水木しげる「河童は日本人が生み出した妖怪の最高傑作ですなあ」

○ **寺島良安(大阪・医者)「和管三才図会」正徳2年(1712)完成・全105巻**

日本と中国の古今東西の文物をまとめてみようとして30年、やっと日本人が、最初に河童の姿を絵で見せた。

○ **「和漢三才図会」**が今日の河童の原型を形作ったと見てよい。 (河童よ、きみは誰なのだ-大野芳)

○ **河童の系譜—安藤操・清野文男著** (かっぱ・カッパ・河童—歴史民俗学)(河童考—飯田道夫)

文献にあらわれた河童—カワウソが河童であるという話、あるいは河童によく似た行動をするカワウソの話は、古文書にある。

○ **「太平百物語(1732年)」**

讃岐の国の下人孫八が主人山城屋甚右衛門の子の甚太郎と相撲をとり、わざと負けるが、家に帰るとじつは、甚太郎は家にいた。

甚太郎が次の日も同じ所で待っていたので孫八は怪しいと思い、岩角に投げつける。

水に流される正体はカワウソであった。 その夜「憎や、わが夫をよくも殺しぬ」と叫ぶものがいた。

それは殺されたカワウソの妻であった。

○ **「御伽厚化粧(1734)」** 身の丈九尺の大坊主が庄屋の息子を洞窟内の沼に引き込む。

国主がその大坊主を家来に射殺させたが、正体は千歳を経た大カワウソであった。

○ **「下学集(1444年)」** 獺老いて河童となる。

「百物語評判(1686年)」 河太郎は子供を水中に引き入れるが、正体は獺の劫を径たるもの。

これらはすべて、河童の原型が大坊主であることを示唆するものである。

○ **九州の河童伝承** 『河童』—大島建彦

沖縄のキジムン(キジムナー)で、同系統が奄美大島のケンモンである。

童形の妖怪で水中にもぐって魚をとるのがうまい、と云う点では内地の河童と同じであるが、これが陸に上がってアコウやガジュマルの木の繁みに隠れている点が注目。

奄美のケンモンは頭の上に皿が有り、陸上に居る時はその皿に青い火を点すと伝えている。

◆ **河童に対するアプローチ** (かっぱ・カッパ・河童—歴史民俗学)

1) **生物学的アプローチ** 河童=未確認生物説ほか

河童を何らかのせいぶつとして解釈しようとするもの。

河童は、その正体がまだ確認されていない何らかの生物(動物)と考える考え方。

この「未確認生物」は、もしはっけんされれば「新種」ということになる。
一方、河童とは、カワウソ・スッポン等を「誤認」したものだという説もある。

2) 妖怪学的アプローチ・・・河童=妖怪説

妖怪と云うものを神秘化せず、それを伝統的な心意の上にたち現れる「仮象」だと解する立場がある。

3) 民俗学的アプローチ・・・河童=妖怪説・河童=先住民族説

かつて日本に住み、後からにやってきたヤマト民族によって滅亡させられた先住民族についての記憶が、「河童」という形で残っているという見方。

4) 歴史民俗学的アプローチ・・・河童=(没落した被征服民族の神) 説ほか

- ・折口信夫は、1929年に発表した「河童の話」の最後で、ひょうすべは、「大和穴師兵主神の末である」としました。
- ・千葉徳爾先生は、1954年の論文「田仕事と河童」で、河童伝承は人口灌漑の発達した地域に多く分布することを指摘して、その背景を歴史的・社会的に分析した。
- ・沢史生さんの「闇の日本史—河童鎮魂」(1987)では、河童とは、大和朝廷に滅ぼされた古代産鉄族の子孫が妖怪視されたという見方が示される。
- ・磯川全次—かつて被征服民族(先住民族含む)が信仰していた何らかのトーテムまたは神が、この民族が没落するとともに没落し、河童に零落していった。

◆ 『河童駒引考』—石田栄一郎 (失われた異星人グレイ河童) の謎—飛鳥昭雄・三神たける著)

世界の河童類としては、チェコスロバキアのウッコヌイ、インドのバインシャースラ、ハンガリーの水魔、フィンランドのネッキ、ロシアのヴォジャノイ、スコットランドのケルピー、スペインのドゥエンデ、ディルガディン、ドイツのワッセル、ロイテ、ニッケルマン、ブラジルのサシペレレ、エジプトのドギルが知られている。

なかでも、日本の河童に似ているのが、ヨーロッパの水の精「ニクス」である。

ニクスは、ドイツヤイギリスなどに棲んでいた先住民ケルト人の中で信じられていた妖精で、女性の姿をしたものを「ニクシー」と呼ぶ。

ニクスは人の姿をしているが、皮膚の色は緑色。男ニクスは、緑の歯に緑の帽子。

女ニクシーは、金髪巻き毛の美人。言葉を理解するが、人間にとっては危険な存在である。

なにせ、川の近くを通りかかった人間をいきなり襲い、水の中に引き込んでしまう。

ことニクシーは男性を誘惑し、一緒にダンスを踊り、そのまま一緒に水中に入ってしまう。

当然ながら、水中に引き込まれたら、最後。人間は、お陀仏である。

妖精とはいっているが、日本でいえば、ほぼ間違いなく河童と呼ばれるといっても過言でない。

その他—(失われた異星人グレイ河童) の謎—飛鳥昭雄・三神たける著)

- 河童研究家・小島昭雄

遊女が墮胎したり、産み落とした子供が川に流されそれが河童になった可能性を指摘する。
つまり、死んだ赤ん坊や水子の霊が河童になったこともあったというのだ。
妖怪は歴史の闇に生きるものだとすれば、河童もまた、そうした暗い一面を背負っているのかもしれない。

○ 『闇の日本史 河童鎮魂』—古代史研究家・沢史生

河童の正体を大和朝廷に征服された産鉄海洋民族と位置づける。
今でこそキュウリは積極的に食卓に登るが、かつては、けっして高級食材ではなかった。
むしろ、卑しい食べ物ととされていたことを指摘。
河童のキュウリ好きこそ、征服者の疎外の象徴であると述べている。

○ カップとポルトガル宣教師—(失われた異星人グレイ河童)の謎—飛鳥昭雄・三神たける著

河童と合羽は、ともに水に関わるもの以上に、密接な関係があるらしい。
合羽という言葉は日本語ではない。南蛮貿易で舶来して来たもので、もとはポルトガル語で、上着を意味する「capa」からきている。
ポルトガル宣教師と遭遇した日本人は、いったい、彼らは何者か、と。そこで、彼らはポルトガル宣教師に向かって指を指して、お前は誰かと聞いたに違いない。
日本語が判らないポルトガル人でも、指を指されれば、彼らが何かを尋ねているくらいは判ったであろう。
日本人は当然、ポルトガル人そのものを指もりだろう。が、当のポルトガル人は、自分達が着ているものを指差されたと勘違いし困惑しながらも、「capa」と答えたに違いない。
ついには異様な姿をした西洋人は妖怪として理解され、その名前がカップと考えられるようになった。
つまり、これが河童の誕生である。
頭を剃って、鼻が高く、マントをはおった姿が河童に見えた。

○ 『河童会議—火野葦平』—昭和天皇に話した話

『中近東ペルシヤ方面—今のヨルダン、あの方面から大移動して来たのではないかと云うことも言えるわけです。ドイツにも、ワッセル・ロイテ、ニクゼンというカップに良く似た動物がいたといえますから、もっと西から来たのかも知れません。ともかく、カップの大群が九千坊という大将に率いられて、インドのヒマラヤ山の南麓、デカン高原の北、その間にあるタクラマカンという砂漠を東に移動して、蒙古を通り、中国を抜け、朝鮮から海に出た。
そして、九州の八代の徳の洲という所から、上陸したと言われまして、今でも徳の洲には上陸記念碑があります』というので皆大笑い、陛下も笑われた。
河童の正体が秦氏だとすると、途端に話はリアルになる。
河童を率いてきた九千坊には、大陸をさすらい、朝鮮半島から日本列島へ、秦氏を率いてきた弓月君^{ゆづきのきみ}の姿が見事にオーバーラップしてくる。古代の中央アジア、天山山脈^{てんしゃん}の麓には、かつて「弓月王国」なるオアシス国家が実在したことが中国の史書『資治通鑑』に記されているのだ。
弓月君^{ゆづきのきみ}は「弓月王」とも呼ばれており、彼の故郷が弓月王国であったことは十分考えられる。
弓月君^{ゆづきのきみ}に率いられてきた秦氏とは、弓月王国の民だったのではないか。
もし、そうだとすれば、火野葦平氏がいう通り、河童は中央アジアからやってきたことになるのだ。
火野葦平氏は何を調べたのか定かでないが、もっと昔には、河童は中近東ペルシヤ方面、今のヨルダンあ

なりに住んでいたというのだ。

驚くべきことは、秦氏もまた、中央アジアに来る以前は、なんと西アジア、それもパレスチナ地方に住んでいたらしい。

○ 河童はイエス・キリストだった！！

呪いの藁人形が板や紙の人形ではなく、藁の人形でなければならないのは、その文字に理由がある。

「藁」という漢字は分解すると、「艸」+「高」+「木」に分けられる。

まず「高」+「木」だが、これは日本神話に登場する「高木神」を意味する。

高木神は「高御産巢日神」とも呼ばれ、この世の初めに現れた「造花三神」のひとり。

『古事記』によると、原初には混沌だけがあり、そこからひとりで「天之御中主神」と「高御産日神」と「神産巢日神」の三神が誕生したという。これが造化三神である。

日本全国の神社でもっとも多い八幡神社や稲荷神社は、ともに秦氏が創建。

他にも、松尾神社や金毘羅神社、日枝神社、白山神社、鹿島神社、諏訪神社、白髭神社など、神社のほとんどに秦氏が関わっている。

記紀神話の冒頭に登場する造花三神もまた、秦氏が崇拝する神なのだ。

造花三神の正体は絶対三神である。その対応を示せば、次のようになる。

「天之御中主神＝御父＝エロムス」

「高御産巢日神＝高木神＝御子＝ヤハウエ＝イエス・キリスト」

「神産巢日神＝聖霊＝ルーハ」

これでお分かりのように、藁人形の神、高木神はイエス・キリストなのだ。

藁人形に打ち付ける御神木は「生命の樹」であり、まさに十字架。

藁人形も、本来は十字形にして打ち付ける。

「藁」という文字は「艸」を被った「高木神」、つまり「棘のある荊の冠」を被ったイエス・キリストを象徴している。よって、呪いの藁人形を御神木に打ち付けるとは、十字架にイエス・キリストを磔にする行為なのである。

藁人形の正体がイエス・キリストだとすると、だ。

藁人形から生まれた河童の正体は何か。もう多くの説明は不要だろう。

そう、イエス・キリストである。河童はイエス・キリストだったのである。

数々の象徴に彩られた河童は、最終的に全人類の救世主を具現化していたのである。

○ 河童百態一村田晃治

古代河童は河伯と称されておりましたので、河の長、つまり水の支配者とされていた。

水神信仰が、日本における河童との付き合いの始まりです。

しかし、河童濫觴の地中国では、最初から河伯は偉人が死してからなる神であり、水虎と言われたのは、水中の妖精、魑魅魍魎の類と区別されている。

和名妙等に云ふ河童「兼名苑云河伯一云水伯、河之神也」や伊呂波字類妙の「河伯神河神、水伯」等と記されているのは河童の認識が渡来後に河伯と水虎の全く別物がそれがどこかで混同してしまった為。

河伯の発音がカッパに近いからといふ説も聞かれますが、いずれにいたしましても「水虎」が今の我々の概念の河童の淵源で、それを元にしてイメージーションが膨らんでいった。

まとめ

河童 中国人渡來說・河童人形起源説・川へ捨てた木屑や藁人形説・平家女官変身説・みづちが河童の起源
又、牛頭天王ごずてんのうの御子神の話・カワウソ・スッポン等を「誤認」したものだという説・河童の正体を大和朝廷に征服された産鉄海洋民族と位置づける説等々河童は実在の動物か架空の動物か・・・？

- ・遊女が墮胎したり、産み落とした子供が川に流されそれが河童になった話などは、日本の貧しい生活の中で実際行われたであろうかと思われて心が痛む。
- ・今回の調べで「ポルトガル宣教師を河童だと云った話」火野葦平が昭和天皇に話した話「河童を率いてきた九千坊には、大陸をさすらい、朝鮮半島から日本列島へ、秦氏を率いてきた弓月君ゆずきのきみの姿が見事にオーバーラップしてくる話」「藁人形の神、高木神はイエス・キリストなのだ。」など興味が湧いたことでした。
- ・いったい河童とは何物なのだろうか。もちろん答えは一つではない。

深い淵の渦であったり、カワウソやスッポン、サル、はては精霊、妖精であったりしたこともあるだろう。ときには、河童と呼ばれた人間も、存在した。

伝承を読み解けば、そこに大工や陰陽師、渡来人の姿を見つけることは、それほど難しいことではない。特に秦氏と呼ばれたユダヤ人原始キリスト教徒深く関わっている。

- ・河童は、実在していた？ 架空の話？ 日本古来の妖怪伝説等々色々と言われていますが、本当の処は、河童を愛している人には実在するし、河童なんかいないよと云う人には何にも見えないモノである。これからも河童連邦共和国のスローガンである『水は命・河童は心』の精神を大切に、これからの人生を大いに満喫して行きたいと思う。！！

河童連邦共和国のもうひとつの重要な活動の柱は、かっぱを再び呼び戻すための環境「きれいな水、豊かな緑、澄んだ空」を守っていくことである。

参考文献

- * 失われた異星人グレイ『河童の謎』—飛鳥昭雄・三神たける著
『闇の日本史 河童鎮魂』—古代史研究家・沢史生
- * 『河童駒引考』—石田栄一郎
- * 『かっぱ・カッパ・河童』—歴史民俗学
- * 『和漢三才図会』—寺島良安
- * 『河童の系譜』—安藤操・清野文男著
- * 『河童考』—飯田道夫
- * 『河童よ、きみは誰なのだ』—大野芳
- * 『九州河童紀行』—九州河童の会
- * 『河童の世界』—石川純一郎
- * 『遠野の河童たち』—原美穂子
- * 『河童アジア考』—斎藤次男
- * 『河童会議』—火野葦平
- * 失われたドラゴン『怪獣UMA』—飛鳥昭雄・三神たける著
- * 『河童の荒魂』—若尾五雄
- * 『遠野の河童たち』—原美穂子
- * 『河童』—大島建彦
- * 『河童・天狗・神かくし』—松谷みよ子
- * 『河童百態』—村田晃治
- * 『日本のかっぱ』—監修河童連邦共和国